

日本発育発達学会第7回大会が、国際武道大学を会場に2009年3月7日（土）～8日（日）の2日間にわたり開催された。

この学会は、主に子どもの発育・発達、健康、運動に関する科学的研究並びにその連絡協同を促進し、この分野の研究発展を図り、さらに実践に資することを目的として2002年に設立された。以後、年次大会を毎年各地で開催し、今年7回目を迎えた。

大会運営には、本学教員、東海大学教員、千葉県教育委員会・東上総及び北総教育事務所等の指導主事、いすみ市教育委員会、本学学生等、総勢40数名のスタッフが参画した。本学教員スタッフは、大会長・鈴木和弘、副会長・中島一郎、組織委員会委員長・小磯 透、副委員長・中西 純、委員・吉見 譲で、この他に委員と事務局員に本学研究生と学部4年生3名を配した。

今大会は「幼少期からの健やかな成長を願って～勝浦からのメッセージ～」をメインテーマとして、このテーマに沿って、学術的研究と多様な実践研究の融合を図る5つの特別講演・講座を企画した。

1) 大会長講演

鈴木和弘・本学教授「子どもの可能性を育む身体教育」

2) 公開講座

中島一郎・本学教授（学部長）「子どもの心を揺さぶり、集団の力を引き出す体力づくりの実践～GSDの活用～」

3) 学会特別講演

榊原洋一・お茶の水女子大学教授（小児科医）「子どもの発達と臨界期」

4) チュートリアル1

佐竹 隆・日本大学准教授「ヒトの発育・発達・成熟～基礎理論と学校教育」

5) チュートリアル2

大澤清二・大妻女子大学教授（日本発育発達学会理事長）「Health Quality Control を用いた健康づくり」

学会員による研究発表は66もの演題があった。これは一昨年、昨年を上回るもので、今大会は発表演題数も多いことから、すべてポスター形式による発表・質疑応答とした。本学からも小磯准教授、中西准教授、吉見助手の3名が発表した。ポスター発表では活発な議論が行われ、学術研究に相応しい盛り上がりを見せた。

大会初日は晴天に恵まれ、大会への参加者は200名を越え、例年になく規模となった。この学会は、大学関係者や研究者だけでなく、幼少年期の子どもの発育発達に関する研究を中心として活動していることから、小中学校の先生方も多数参加した。さらに、今大会では幼児を対象にした公開講座を行ったことので、幼児教育関係者の参加も多かった。

大会運営を裏方で支えてくれたのは、本学の学生28名である。勝浦駅での案内、駐車場で誘導、バスの手配、受付やクロークでの業

務、学会関係者への接待、名札の作成、公開講座のサポート、写真や映像記録など、多岐にわたる仕事を献身的に行ってくれた。本学学生の誠実で真摯な対応は、参加者の間で評判となり、受付担当の県教委の指導主事からは「武道大学の学生の活躍ぶりを是非誉めて頂きたい」と大会長へわざわざ申し出があったほどであった。その他、大学関係者や子ども連れで参加された研究者など多数の方々から、学生の活動ぶりを高く評価していただき、ありがたかった。

これまで本学では近隣地域との交流を積極的に行ってきたが、この大会を通して本学と地域とつながりをさらに強固なものとする事ができた。また東海大学との連携も深めることができた。これを契機として、国際武道大学から様々な実践や研究の成果を発信したいと思っている。

最後になりましたが、日本発育発達学会が今後ますます発展されますよう祈りながら、大会の報告とさせていただきます。



大会長講演 鈴木和弘氏



公開講座 中島一郎氏と子どもたち



学会特別講演 榊原洋一氏



チュートリアル1 佐竹隆氏



チュートリアル2 大澤清二氏



ポスター発表風景 (中西純氏)